

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター
住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1
愛知県東大手庁舎 1階
TEL：052-954-6722
FAX：052-954-6993
開館：月～金 10～17時



大震災・原発事故による広域避難とパーソナル支援（3～5年先の課題を探る）

2012年3月21日（水）愛知県社会福祉会館にて、第18回パーソナルサポート支援チーム会議・公開版として、愛知県内の市町村や社会福祉協議会、一般ボランティアに呼びかけて開催しました。約70名の参加がありました。

第1部では、①愛知県被災者支援センタースタッフ 向井 忍 から各種データとして、避難者数の推移、センターの支援活動の経過、今後の課題について説明しました。②東日本大震災ボランティアセンターなごや センター長 中村弘佳 氏から、訪問による効果の表れとして被災者からの相談は9月以降増えた、今後はこちらから出かけたり、電話を掛けたりして接触をとる、との話がありました。③パーソナルサポート支援チームメンバー 仲田 法子 氏から、「気持ちを手紙に」とお礼の訪問を通じて、一人ひとりの支援は地域ぐるみで行うことが必要だから継続したおつきあいをして、地域の課題を見つけていく、との報告をいただきました。④豊橋市での2回のワークショップから、前田洋介 氏がこれまでのまとめとして、「ワークショップをつづけながらアイデアを温めていく。誰かの為に役立つつながり作り」を目指す、との報告をいただきました。

第2部では、次の方々にご登壇いただき、こちらからの質問にお答えいただく形ですすめました。①安城市在住、福島県双葉町出身の大沼勇治・せりな夫妻。②小牧市在住、栃木県那須塩原市出身の井川 景子 氏。③名古屋市在住、福島県南相馬市原町区出身の高橋 貴子 氏。④知多市在住、岩手県陸前高田市出身の鶴島 道子 氏。それぞれに現在の住み心地は、との問いにおおむね「良い」と応えていただきました。今後の生活設計などについては、「帰還困難」、「永住先を見つける」、「貯金を使いきったのでやり直しになる」、「甲状腺検査などを愛知県で

受けない」、「愛知県に恩返しをしたい」などお答えいただきました。そして最後に豊橋市で「一緒にやりますの集い」を広げていきたいと、ワークショップを重ねていらっしゃる今泉 律子 氏のビデオメッセージを見ていただきました。どなたも勇気のあるご出演と心情の吐露に、感謝申し上げます。

第3部では、①愛知県弁護士より「避難する権利」を、特に「区域外避難者」への支援のために情報を出し続けることの必要性を主張されました。また相談会などを、名古屋市以外の瀬戸市、豊田市、豊橋市、小牧市などへの出張対応で行ないたい、とのことでした。②愛知教育大学 心理教育相談室長 三谷 聖也 氏より、中期的支援として成果をすぐに求めるのではなく、次の世代に成果が表れればよいという気持ちで続けた方がいいだろう、とのアドバイスをいただきました。③福島県災害対策本部活動支援班、県外避難者支援チーム 石井 英世 氏からは、「福島は皆さんを絶対に見捨てない」と、NPOとの協力を力説されました。④国の復興庁の品田 朋廣 氏より、「支援を必要としているにも拘らず支援を受けていない人をなんとかしなければならぬ」、と感想をいただきました。

アンケートより

◆ 弁護団の存在が心強い ◆ 自分たちに出来ることをやりたい（某市の職員） ◆ 生の声が聞けて良かった ◆ 具体的な資料が充実していた ◆ 支援者をもっと増やしたい ◆ 避難者の声を聞き続けて伝え続けたい ◆ 国が当てにならないのが悔しい

●今回、濃い内容でしたので、今後は避難者の皆様たちにも参加を呼び掛けていければと思います。

ふるさと交流会 in 犬山

3月18日(日)、犬山市役所にて「ふるさと交流会 in 犬山」が開催されました。

14世帯36人の方の出席でした。犬山副市長のご挨拶で始まり、弁護士、司法書士の方々も交じて会話がはずみました。

タイ式マッサージのコーナーが設けられていて、日頃の疲れが癒えると大盛況でした。

キッズコーナーは絵本の読み聞かせや折り紙などの他、「ごきぶりたたき」のコーナーがあり、



リアルなデカごきぶりに泣きだす子もいたほど。でもゲームに加わった子ども達は大盛りあがり、白熱していました。

昼食はコープいぬやまの方々をご用意くださいました。豚汁は材料の産地も表示いただき、安心してそのおいしさを味わうことができました。

昼食後、犬山城散策と体験コーナーに分かれ、犬山を堪能しました。

交流会後は、当日、東日本大震災復興支援イベント『絆プロジェクト』が犬山駅前で開催され、さまざまな屋台やパフォーマンスが繰り広げられていて、そちらを楽しまれた方々もいらっしゃいました。また犬山城下町でもお祭りがあり、にぎわっていました。

4月7、8日(土、日)には犬山祭が行なわれ、桜の中をからくり人形を備えた山車が練り歩きます。今回参加された方はもちろん、今回参加できなかった方も、春の犬山を満喫しにお出掛けください。

復興支援もちつき大会

3月18日、小雨がけぶる日曜日、あいち健康スポーツ応援団が主催するもちつき大会が開催されました。あいち健康スポーツ応援団は、大府市民活動センターを拠点にして、普段は子どもたちに野球を教えながら、老若男女の健康増進を目的とした活動を展開している市民団体です。野球を習っている子どもたちが、昨年、大府駅前で被災者支援のための募金活動を行いました。その様子を見た応援団の団長が、愛知県に避難してきている子どもも、いっしょに楽しむことができたらよいのにと考え、今回、復興支援もちつき大会を主催しました。

参加した避難者は、1家族3名。東海市に住んでいるKさん家族が参加しました。子どものためにイベントには積極的に参加したいと思っています、と話していました。そして、いっしょに楽しみたい支援者は22名。総勢25名が集まりました。

最初は、ペットボトルのキャップを使ったアート。みんなで、いろいろな色のキャップを使って、たたみ1畳ほどの絵を作りました。



その後、もちつきを行いました。1臼目は、おもちになりませんでした。2臼目、3臼目と慣れてくるにしたがって、おいしいおもちになっていきました。もちつきが終わったのが、ちょうどお昼。おいしそうな焼きそばも出てきて、みんなで口いっぱい頬張りました。

NPO法人愛知県健康管理士会の協力で、お昼ご飯のあとは、健康相談会に早変わり。広島での被爆体験を持っている方のお話を聞いたり、心配な健康についての相談を受け付けてくれました。

小雨なんか吹き飛ばしてしまうほどの、元気いっぱいのもちつき大会でした。こんな楽しい交流会だったら何度でも参加してみたくなっちゃう、という声を聴きながら、さよなら、また遊ぼうね… あっという間の6時間でした。

第3回子育てつどいの広場 in 瑞穂区

3月18日(日)10:30～16:00「第3回子育てつどいの広場 in 瑞穂区」が開催されました。昨年12月に第1回が開かれ、2月に引き続き今回は3回目です。参加者は6世帯16名、ボランティアの支援者は14名でした。日頃はお子さんたちが遊ぶ場所なので、いつものように目いっぱい遊びができました。終了予定は14時でしたが、16時まで、お母さんたちが心おきなくお話しに花を咲かせました。今回も弁護士が参加されました。他に介護職員、看護師、中学生の方も何かしたいということで、ボランティアで参加されました。今後に関がればありがたいです。

★皆さんのお話しの中から

- ・仕事をしたいのでこどもを保育園に入れたい。
- ・弁護士の先生を囲んで原発事故の賠償問題も話題になった。

★アンケートの中からお知らせします。

- ・今後どのような政策があるのか将来について不安。
- ・これからの生活がとても不安に思います。



- ・このまま名古屋にいるか郡山に戻るか今も悩んでいます。
- ・いつも楽しみにしています。長く続けてほしいと思います。
- ・来年3月までは市営住宅で入居可なので名古屋での生活を続けていきます。
- ・主人の転職先が決められない。
- ★全員の方が福島県からの方でした。故郷に戻るか愛知県に残るか、どなたも心が決まらない、そんな心情が一杯です。
- ★第4回は5月に開きたいとの主催者のお話しでした。読者にはどうぞ、ふるってご参加をお願いします。

愛知県からのお知らせ

「愛知県被災者支援センター」は、東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故に伴い本県に避難されている皆様に対しまして、行政ではなかなか行き届かない、迅速かつ機動的な支援を行うため、東日本大震災の被災地支援に積極的に取り組み、災害時の支援活動に関するノウハウも持っている県内のNPO法人に委託する形で昨年6月13日から開設してきました。

新年度となる4月以降も「愛知県被災者支援センター」を開設し、引き続き皆様方に対する支援を行ってまいります。新年度の契約手続きに伴いまして、現在東大手庁舎で行っている「愛知県被災者支援センター」業務をいったん休止させていただきます。

皆様方に不便をおかけしないよう、できる限り早く手続きを終えるよう努めますのでご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、新たに愛知県東大手庁舎での「愛知県

被災者支援センター」業務を再開するまでの間、皆様方からのお問い合わせ等につきましては、以下のところでお受けしますので、何かございましたら遠慮無くお尋ねくださいますようお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

愛知県被災地域支援対策本部

被災者受入対策プロジェクトチーム

名古屋市中区三の丸3-1-2

愛知県庁本庁舎2階

愛知県防災局災害対策課

災害対策調整グループ内

TEL：052-954-6724，6725，6726

(ダイヤルイン)

052-961-2111(県庁代表)内線2515

FAX：052-954-6938

3.11 ふくしま復興の誓い 2012「ふくしま宣言」

2011年 3月 11日午後 2時 46分。

あの日、あの時を迎えるまで、このふくしまの姿を誰が想像できたでしょうか。

大地震、大津波は、多くの尊い命と穏やかだった私たちの暮らしを、非情にも奪い去りました。

原子力災害は、美しいふくしまを一変させました。

さらに、風評被害は、地域の活力を奪い、私たちの心までも深く傷つけました。

この1年、福島県民は、深い悲しみや悔しさを抱えながら、ある人は、住み慣れた土地を追われ、ある人は、少しでも元の暮らしを取り戻そうと汗を流し、またある人は、家族離ればなれの生活を選びました。そして、見えない放射線への不安とも闘いながら、それぞれが必死に毎日生き抜いてきました。

これほど厳しい状況にあっても、取り乱すことなく、地域のきずなを大事にしながら、一生懸命頑張っている県民の皆さんを、私は誇りに思っております。200万県民一人一人の努力と温かい心に、深く敬意を表します。

全国、そして世界の皆さん、これまでの、心のこもった数え切れない御支援に、福島県民は大いに助けられ、励まされ、勇気をいただきました。改めて、心より感謝を申し上げます。

皆さんの支えと県民の努力があって、このふくしまにも、今ようやく復興の芽が出始めました。

この小さな芽を、私たちみんなの手で、しっかりと大きく育てたい。そして、やがて大きくなったその木の下に、笑顔あふれる子どもたちが集まる、そうしたふくしまを、私は創っていきたくないと考えています。

地震・津波という自然災害に始まり、原子力災害さらには風評被害、人類がこれまで経験したことのない、このような多重の災害が、なぜ起きてしまったのか、私たちはしっかりと考えなければなりません。

「自然の脅威に対する十分な備えができていたか。」

「科学技術の力を過大に評価していなかったか。」

「原子力を扱うことの難しさと正面から向き合ってきたらどうか…。」

これらの問いの中に、未来への大切な教訓があるはずです。

私たちは、科学技術の力を過信することなく、自然の持つ力の大きさをもう一度しっかりと心に刻み、全ての人々が安心して暮らせる社会づくりを進めていきます。

そして、二度とこのようなことが起きないように、県内の原子力発電所を全て廃炉とすることを求めながら、再生可能エネルギーを推進し、原子力に頼らずに、発展し続けていくことができる社会を目指します。

今、全世界の人がFUKUSHIMAを見つめています。私たちは、地域の発展と地球環境の保持が両立できる新しい社会の在り方を、さらに、そこに暮らす人々が共に支え合い、地域の文化や誇りをつないでいくことの大切さを、復興していく自らの姿をもって、世界に示してまいります。

ふくしまが選んだ道は、決して平坦な道ではありませんが、県民は、すでに前を向いて立ち上がり、歩き始めています。県民が心をつなげて、この困難に立ち向かってまいります。

「私たちは必ず、美しいふるさとふくしまを取り戻します。」

私たちは必ず、活力と笑顔あふれるふくしまを築いていきます。

そして私たちは、このふくしま復興の姿を世界へ、未来へと伝えます。」

災害発生から1年を迎えた本日、これを「ふくしま宣言」として、全世界の皆さんにお誓いいたします。

2012年 3月 11日 福島県知事 佐藤雄平